

(様式3)

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成26年11月7日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0891600066		
法人名	医療法人社団 正信会		
事業所名	小規模多機能型居宅介護施設 いわま	ユニット名	—
所在地	319-0206 茨城県笠間市安居3144-357		
自己評価作成日	平成26年4月3日	評価結果 市町村受理日	平成26年11月4日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2013_021_kihon=true&JigyosyoCd=0891600066-00&PrefCd=08&VersionCd=021
-----------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成26年6月6日	評価確定日	平成26年10月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

家庭的な雰囲気の中で利用者様の笑顔や、いつも笑い声が聞こえる空間をつくりだしていけるよう努めています。毎日、午後からの集団で行う手足の運動、口腔ケアの体操に力を入れて取り組んでおります。季節事の制作物に利用者様の意欲を引き出し、想像力、作る喜びを感じて頂き楽しく活動できるよう心がけています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

運営母体の医療機関や近隣の市で実施する介護サービス事業所と連携を図り、利用者が安心して暮らせるように支援をしている。
管理者は地域密着型サービス事業所のあり方をしっかりと捉え、地域住民やボランティアとの交流を心がけるとともに、職員同士の連携を図りながら利用者の支援に取り組んでいる。
共用空間は明るく、利用者が居心地よく過ごせるように音や光、換気に配慮している。
居間兼食堂の一角には小上がりの部屋を設置するとともに、テレビやソファ、観葉植物が配置され、利用者が寛げる場所となっている。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義をふまえた理念の作成をし、フロアに掲示して申し送り時に確認、実践に取り組んでいる。	「いつまでも地域住民との交流のもとで、在宅生活が続けられますように」との地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を管理者と職員で作成し、居間兼食堂に掲示するとともに、職員は朝夕の申し送り時に理念を確認し、実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者様と近隣を散歩時に近所の方々とあいさつを交わしたり、行事等で地域の方がボランティアで来てくださり、一緒に食事を共にして交流を図っている。	利用者と職員は一緒に近隣を散歩する際に地域の人々と挨拶を交わしたり、大雪が降った時には職員が地域の方々と一緒に雪かきを行ったりしている。 フラダンスやよさこいダンスなどのボランティアを受け入れているほか、2ヶ月に1回地域の理容師の来訪があるなど、日常的に地域住民と交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	利用者の家族の方やボランティアの方が来られた時に、話の中で認知症の方に対する支援方法をわかりやすく理解していただけるよう支援に努めている		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、隣接する同一法人グループホームと合同で2ヶ月に1回市職員の参加を得て開催している。そこでの意見をサービス向上に努めている。	運営推進会議は市職員や民生委員、地域住民の代表等の参加を得て、併設する同一法人の認知症対応型共同生活介護事業所と合同で2ヶ月に1回開催している。 会議では利用状況や活動報告、外部評価結果報告などを行うとともに、利用者の外出や災害対策、食中毒などのテーマについて話し合い、出た意見等をサービスの質の向上に活かしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者に連絡を取ったり、事業所に出向いたり、サービスにつなげられるよう努めている。	市担当者が毎回運営推進会議に出席している。 管理者は市担当者に運営推進会議録を持参した際などに、事業所の利用状況を報告したり、課題を相談したりするとともに、職員は市主催の研修会に参加するなど、日頃から協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について、職員と共に「緊急やむを得ない」3つの要件について学び話し合い身体拘束をしないケアに心がけている。やむを得ず身体拘束を実施するにあたっては、家族の同意を得たうえで、拘束の状態や時間、心身の状況等を記載した経過記録を残すように努めている。	管理者は身体拘束排除マニュアルを作成するとともに、現場教育などを通して職員が身体拘束の弊害を理解するように努めているが、改めて内部研修や外部研修を受講するまでには至っていない。 昨年まで車いすの拘束ベルトやベッドの4点柵、玄関の施錠を対象としていた利用者も現在は生活環境に順応してきたため、職員は身体拘束をしないケアに努めている。	定期的に内部や外部研修の機会をつくり、職員が身体拘束とその弊害を正しく理解し、身体拘束をしないケアが続けられることを期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待のないケア、虐待につながらないように職員全体で話し合い、事前防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業、成年後見制度について、職員全体で学ぶ機会を設けていけるよう努めていきたい。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書や重要事項説明書で理解していただけるよう説明を行い、利用者様、ご家族様の同意を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様との日常の会話の中での意見、家族様との連絡帳、お便り、送迎時来訪時に要望を聞くようにしており、意見要望がでた時は申し送り時に話し合い、運営に反映させている。	玄関に意見箱を設置するとともに重要事項説明書に事業所と第三者機関の苦情相談受付窓口を明記し、契約時に説明している。 職員は利用者とは日常のふれ合いの中から、家族等とは送迎時や面会時に意見や要望を聞くようにし、出た意見等を運営に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回開催する法人の全体会議で意見や要望を聞く機会がある他、管理者は、申し送り時昼休み時間等、職員の意見を聞き運営に反映させている。	管理者は月1回開催する全体会議や朝夕の申し送り時、昼休み時間等で職員の意見や提案を聞いている。 職員の希望する休暇を取り入れた勤務体制や物品購入などの意見等を運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働きやすい環境作りに心がけている。常に職員の健康状態や働く意欲を確認し、向上心を持って職場環境、条件に努めている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のケアの力量を把握し、研修や講習の参加等の確保、働きながら個人個人のスキルアップを心掛けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	系列の病院、施設、市内の会議に参加し、同業者と交流する機会をつくり相互訪問などの活動を通じ情報交換を行っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用前に利用者様が緊張しないよう環境作りに努め、安心して利用してもらえる関係作りに心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者様、家族様と話し合いの中で、今の状況生活環境等、じっくりとお話を聞き、不安なこと困っていることを見つけ出せるよう関係づくりに努める。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他のサービス、住宅改修、福祉用具貸与等のプラン利用、対応に努める		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の性格、考え方、その時の感情面など把握し見守り利用者様と向き合い、関係を築いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様とは、常に連絡をとり、来訪時等その時に状況、状態を伝え、共に支えていく関係が途切れないよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家に戻られた時、近所の馴染みの方がその時に来てくれたり、行きつけの床屋の家の方が家に泊まりに来てくれたりと利用者さんとの関係が途切れないよう支援に努めている。	職員は利用者の生活歴や生活習慣を尊重しながら支援をしている。 利用者が昔よく行った公園に出かけたり、家族等の協力を得て自宅に外泊した際は、近所の馴染みの方が会いに来てくれたり、行きつけの理容室の方が泊まりに来てくれるなど、関係が途切れないよう支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	座席の配置、レクリエーション、食事時等お互い交流が図れるよう心掛けています。職員も利用者様が孤立しないよう一人一人声かけしている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了されても、病院に行き、入院後の経過を聞いたたり、声掛け等行っているご家族様が、時に来訪してこられることもあり、いつでも相談に応じることができるよう努めている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者様個人の生活歴を把握し、日常的に利用者様に話しかけ意見や要望を聞く機会をつくる。意思疎通が困難な場合は、表情、しぐさ等から判断したり、職員で話し合っただけで利用者様の思いや意向の把握に努めている。	職員は利用者の生活歴や生活習慣を把握するとともに、日々の会話から思いや意向を把握し、介護日誌に記載するように努めている。 思いや意向を表せない利用者については、行動や表情を観察して把握するようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントや日常的に利用者とのコミュニケーションを図り意見要望などから情報収集できるよう努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	居宅介護支援事業所からの情報、家族との連絡の中で情報を聞き現状把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は家族等の希望を取り入れて作成している。新たな課題や心身の状態に変化が見られた場合はその都度みなおし、家族等の確認を得ている。居宅サービス計画にそって介護支援計画を作成し、全職員で共有して利用者の支援にあたっている。	介護計画は利用者や家族等の希望を取り入れ、介護支援専門員が作成している。 モニタリングは毎月実施し、介護計画の見直しは設定期間毎に行っているが、介護計画の見直しにあたっては、必ずしも家族等や職員、関係者等と十分話し合いが行われるまでには至っていない。 心身の状態に変化が生じた場合はその都度介護計画を見直し、家族等の確認を得ている。	介護計画の見直しは、利用者や家族等、職員、関係者等と話し合いの機会を設けて行うことを期待する。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践等、個人のケース記録に記入し、結果や気が付いた点は、常に見直しに努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様や家族の状況に応じて、緊急なお泊りの対応、通いの時間延長等、柔軟な支援、サービスが行われるように努めています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアの方に来て頂き利用者様に楽しむことができるよう努める。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関への定期的な受診支援しており、受診結果は家族等と事業所で電話や連絡帳等で連絡しあい、共有して利用者の支援に努めている。	利用契約時に利用者や家族等からかかりつけ医の意向を確認しているが、ほとんどの利用者が協力医療機関をかかりつけ医としている。 職員は定期的に協力医療機関への受診を支援するとともに、受診結果は電話や連絡帳などで家族等に報告している。 協力歯科医療機関からは必要に応じて訪問診療があり、利用者や家族等の安心につながっている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常に看護師、協力病院との連携を図り、適切な受診や看護を受けられるよう努めている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、情報提供し、面会を行い状態観察医療機関より情報交換や相談に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期の対応のあり方について全職員で話し合い、重度化や終末期に向けた方針を文書化し、契約時に利用者や家族等に説明して同意を得ている。	重度化や終末期の対応について、事業所の方針は基本的に看取りは行わず、運営母体の病院に移ることとする旨の説明書や同意書を作成し、利用契約時に利用者や家族等に説明して同意を得ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	協力病院との連絡体制を整えており、柔軟な対応ができるよう努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	隣接するグループホームと夜間想定での合同避難訓練を行う。消防署の指導により、指摘された点等、職員で見直し再確認する。近隣の方の協力を得られるよう努めています。	隣接する同一法人の認知症対応型共同生活介護事業所と合同で年2回避難訓練を実施し、内1回は夜間を想定した訓練を実施している。 避難訓練の結果を記録しているほか、消防署のアドバイスを受けて、反省点を話し合ったりして、次回の改善に努めているが、地域の人々との協力体制を築くまでに至ってはいない。 災害に備えて飲料水や食料、懐中電灯、おむつなどを備蓄しているが、一覧表にして消費期限等を管理するまでに至っていない。	地域の人々との協力体制について運営推進会議などで話し合い、実現することを期待する。 災害用備蓄品については一覧表を作成し、定期的に点検して管理することを期待する。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は、利用者様一人ひとりの性格、育った環境の違い等把握し、その個人を尊重し、温かみのある言葉かけ対応に心掛けている。	職員は利用者一人ひとりの人格を尊重し、プライバシーを損ねない言葉かけや対応に努め、排泄時や入浴時はさりげなく声をかけるよう心がけている。 機械浴槽を使用する場合には、利用者の身体をバスタオルで覆うように配慮している。 利用者の個人情報の書類は事務室の鍵のかかる書棚に保管して管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様との関わりの中で本人が自分から何かを考え、自己主張、自己決定できる雰囲気づくりに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の希望を尊重し、全体で同じもの行うこともあるが、できるだけ本人のペースにあった時間が過ごせるよう配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様らしさ、好みに合わせておしゃれができるよう心がけている。地域の美容師さんがボランティアで来て頂き、散髪している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	法人の栄養士が献立を考え、カロリー計算されたものを提供している。嫌いな品は、代替品で対応している。行事食や自家菜園の収穫物等取り入れ、食事を楽しむことが出来るよう支援している。食事の準備、後片づけ、職員と一緒に行う。	同一法人の栄養士が作成した献立にそって法人から食材が配達されているほか、利用者の嗜好を把握し、自家菜園で採れた野菜を追加している。 職員は利用者と同じテーブルに着いて同じ食事を摂り、会話をしながら食事を楽しめるように支援をしている。 利用者は職員と一緒にテーブル拭きや下膳、食器洗い、食器拭きなどを行っている。 節分や花見、誕生会等の行事食のほか、ホットケーキやおはぎを作り、皆で食べることも楽しみとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士によるカロリー計算された食事を提供し、全量摂取していただけるよう声かけ、水分摂取量は、その日の体調、気温に合わせ、お茶だけでなく、牛乳や飲み物を変えて摂取していただけるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、利用者様の能力に合わせて口腔ケアを行い、自力でできない場合は職員が口腔ケアをお手伝いしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	出来る限り、トイレでの排泄に向けた支援をしている。利用者様の生活リズムや排泄の間隔を把握し、トイレ誘導を行い、自立に向けた支援を行っている。	職員は排泄チェック表を基に利用者一人ひとりの排泄パターンを把握するとともに、声かけ誘導をしてトイレで排泄が出来るように支援をしている。 夜間はポータブルトイレを居室に配置したり、車いすでトイレ誘導をしておむつやパッドの使用量を減らすなど、排泄の自立に向けた支援をしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜豊富な食事、水分摂取量の確認、散歩や適度な運動を行うよう心がけている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	週2回を目安に入浴日を設け、利用者様の状態や希望に応じて入浴日や時間帯を変えたりしている。シャワー浴や足浴等個人に応じた支援をしている。	入浴は週2回午前時間を基本としているが、希望にそって足浴やシャワー浴などを含めて個々に応じた支援をしている。一般浴槽での入浴が困難な利用者には、機械浴槽を使用している。季節によって柚子湯やりんご湯を取り入れ、入浴が楽しめるよう支援をしている。全員入浴を楽しみとしており、現在入浴を好まない利用者はいない。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様一人ひとりに応じた休憩時間を設けている。安心して休憩できるよう配慮に心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や副作用についての説明書が見れるようファイルに閉じており、職員に理解してもらい症状の変化、気づき等確認し、慎重に対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	行事や季節に合わせた制作物作り、日々の生活に張り合いや喜びが持てるよう支援している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日など事業所周辺に出かけている利用者様の希望を聞き、ドライブに出かけられるよう支援している。	職員は利用者の体調に配慮しながら、天気の良い日には事業所周辺の散歩に出かけたり、自家菜園の畑に出かけたりして、外気浴を楽しめられるよう支援をしている。計画的に春は花見、秋には紅葉刈りに出かけ、季節を感じられるよう支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様の金銭管理が理解されている方は、お金を所持し、買い物に行かれる時は支払いできるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	施設内に公衆電話があり、自由に使用できるので、利用者様は、いつでも家族や大切な人に連絡が取れるように支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やフロアーには、四季折々の花や利用者様の手作りの品が飾られ、家庭的な雰囲気ですぐ居心地よく過ごせる場所づくりを支援している。野菜づくり、自家菜園は、利用者や職員が共同で作業したり、コミュニケーションを図る場となっている。	共用空間は明るく、利用者が居心地よく過ごせるように音や光、換気に配慮している。居間兼食堂の一角には小上がりの部屋を設置するとともに、テレビやソファ、観葉植物が配置されており、利用者が寛げるようになっている。共用空間に季節の花を飾ったり、壁や廊下に利用者と職員で制作した作品や行事の写真を掲示したりして、季節感や生活感を感じられるよう工夫をしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同空間の中で、長椅子があったり、大きいフロアに畳の場所、陽のあたる窓辺等利用者様同士の思いに過ごせる居場所の工夫をしている。	/	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、掃出し窓から庭先に自由に出入りが出来る他、利用者が居心地良く過ごせる馴染みの品や好みの物品を持ち込むことが可能となっている。	泊まりの部屋は利用者一人ひとりの生活環境や健康状態に合わせてベッドや床に布団を敷くなど、使い分けている。 利用者はテレビを持ち込んだり、自分で制作した作品や小物を飾ったりして、居心地よく過ごせるように工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内、バリアフリーとなっており、案内板設置され、トイレ等広い空間で便座の高さ、洗面台等低めに設置、車いすの方でも自立した生活が送れるよう工夫されている。	/	

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	1, ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	1, 大いに増えている <input type="radio"/> 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

(様式4)

目 標 達 成 計 画

事業所名 小規模多機能居宅介護施設 いわま

作成日 平成26年11月4日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	6	身体拘束について内部外部研修の機会が持てていない為、職員が身体拘束とその弊害を正しく理解されていない	身体拘束について内部外部研修の機会を設ける。	職員が研修に参加することにより、身体拘束とその弊害の意味を正しく理解することができ、身体拘束をしないケアを続けていけるよう努める。	6カ月～12ヶ月
2	26	介護計画の見直しは、利用者、家族、職員等と話し合う機会が設けられていない。	利用者、家族、職員等と話し合い介護計画の見直しは6カ月位で行う。	介護計画作成時は、職員だけの捉え方だけでなく、利用者、家族との話し合いを設ける。	6カ月～12ヶ月
3	35	地域の人々との協力体制について運営推進会議等での話し合いが実現されていない。災害用備蓄品の一覧票の作成。	地域の方達とのつながりをもち、災害時等、地域との協力体制が築けるようにする。	運営推進委員の方達にも、避難訓練に参加して頂き、地域の方達とのつながりが持てるよう努力する。災害用備蓄品については、一覧表を作成し、定期的に管理していく。	6カ月～12ヶ月
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。